



JASDAQ

証券コード：4970

URL <http://www.toyogosei.co.jp/>

株主の皆様へ

 **TOYO GOSEI**

第57期 中間報告書

(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

 **東洋合成工業株式会社**

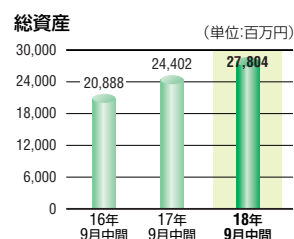
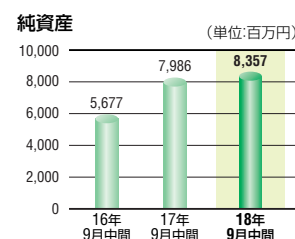
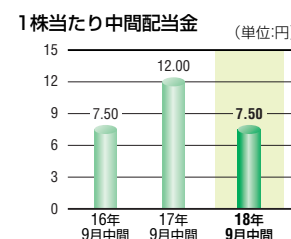
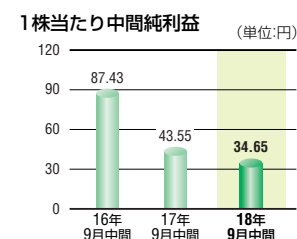
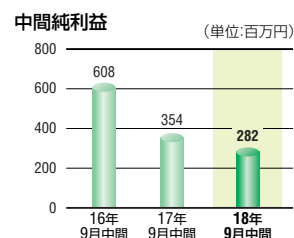
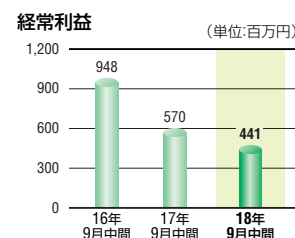
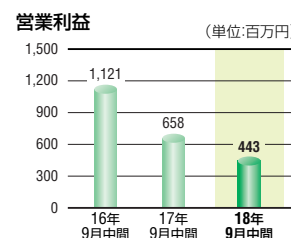
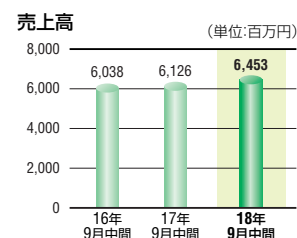
# Financial Highlights

## 中間決算ハイライト

経営成績	当中間期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	前中間期 (自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日)
売上高 (百万円)	6,453	6,126
営業利益 (百万円)	443	658
経常利益 (百万円)	441	570
中間純利益 (百万円)	282	354
1株当たり中間純利益 (円)	34.65	43.55
1株当たり中間配当金 (円)	7.50	12.00

財政状態	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前中間期 (平成17年9月30日現在)
純資産 (百万円)	8,357	7,986
総資産 (百万円)	27,804	24,402

※本報告書中において百万円単位で表示している金額は、単位未満を切り捨てております。



# Message to Our Stakeholders

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、当社の第57期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当中間期におけるわが国経済は、原油価格高騰の影響があったものの企業収益回復により民間設備投資が増加し、雇用環境の改善を受け個人消費も底堅く推移し、景気は回復基調となりました。

当社の関連業界のエレクトロニクス業界は、液晶パネルの在庫調整が一部に見られたものの、薄型テレビを中心にPC、携帯電話などの販売は堅調に推移いたしました。また、汎用化学品業界は、原油高によるコスト増加や価格競争激化などがあったものの、景気回復による需要増加に支えられ総じて堅調に推移いたしました。

こうした状況の中、当社は積極的な営業活動に努めた結果、当中間期の売上高は6,453百万円（前年同期比+5.3%）となりました。一方、損益面では、生産性向上や経費削減に努めたものの、設備投資実施による減価償却費の増加や原油高による原材料費・燃料費等の増加などにより、営業利益は443百万円（前年同期比△32.7%）、経常利益は441百万円（前年同期比△22.7%）、中間純利益は282百万円（前年同期比△20.4%）となりました。

なお、株主の皆様に対する配当金は、業績、配当性向、内部留保等を総合的に勘案し、中間配当として1株あた

り7円50銭とさせていただきます。

今後とも経営資源の最適な配分と財務体質の健全性維持に努め、株主価値の最大化を期してまいります。またより一層の全社的なコンプライアンス体制を整備し、企業倫理の徹底を図り、環境保全にも配慮しつつ事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月



代表取締役社長

木村正博

### ■ 感光性材料事業

Photosensitive  
Materials Business

#### ● 感光材 ●



フォトレジストに用いられる感光性材料(感光材)は、半導体集積回路(IC、LSI)の製造に加え、液晶ディスプレイ・プラズマディスプレイ等の表示デバイスの量産には欠かせない存在です。当社では、最新の感光材生産ラインを完備し、“高性能かつ高品質”の

感光材製品を量産しており、国内だけでなく海外の電子材料メーカーからも高い評価をいただいています。

#### ● エネルギー ●

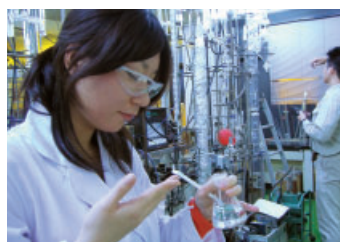


エネルギー事業では、感光材料事業で25年間培った高純度精製技術を活かし、現在注目されているリチウムイオン二次電池・電気二重層キャパシタ製造の材料となるイオン液体(イオン性液体)・電解液を生産しています。

### ■ 化成品事業

Chemicals Business

#### ● 香料材料 ●



香料材料は、高品質、低価格だけではなく、香料として最も重要な“匂い”が安定していることを特徴としており、国内

だけでなく海外の大手香料会社に大量供給し、高い評価をいただいています。また、オランダ・ロッテルダムに物流倉庫を設け、欧州を中心に営業展開を図っています。

#### ● グリーンケミカル ●



グリーンケミカル事業では、廃溶剤を回収、精製分離するリサイクル事業を推進しています。50年間培った蒸留、精製技術を活かし、溶剤を再生し、廃棄物を資源化しています。また、リサイクル溶剤の販売も行っています。

### ■ ロジスティック事業

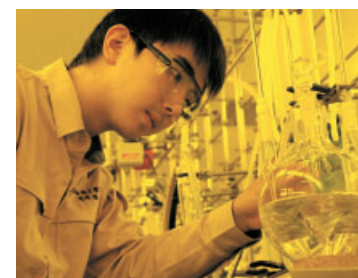
Logistics Business



ロジスティック事業を扱う高浜油槽所は、東京湾岸の中心に位置し、首都高速道路網へ2分でアクセスできる大変便利な立地条件が強みです。さらに、

43,000㎡の広大な敷地に様々な容量、材質、機能を持つ化学品保税タンク計61基設置し、バースは3基備え、月間200隻に対応しています。各種最新設備でのサポート体制を整えており、お客様のご要望に応じた受入・貯蔵・輸送に貢献しています。

### ■ 新規開発事業



ナノテクノロジー部門では、ナノインプリントに使用される材料の事業化に取り組んでいます。弊社は早くからナノインプリント技術に注目し、国内研究機関(東京理科大学、

産業総合研究所)と協力し、PAK-O1(NIL用光硬化性樹脂)を開発しました。

バイオ部門では、コアテクノロジーである感光材と生体適合性ポリマーを結び付けた、感光性バイオマテリアルの開発に取り組んでいます。

### ■ 感光性材料事業Q&A



取締役感光材事業部長 山中智隆

**Q** フォトレジストってなんですか？

**A** フォトレジストは、半導体や液晶パネルの製造工程で、回路パターンを形成する材料として使用されています。

フォトレジストは光を照射すると物理的・化学的变化を生じます。この原理を利用して回路パターンを形成します。使用時には、フォトレジストを塗布し、フォトマスクを通して露光します。これで転写され回路パターンが形成されます。パターン露光された部分が現像でなくなるポジレジストと露光部分が残るネガレジストの二種類があります。また、サブミクロンの微細パターン用に、極短波長の電子線やX線に感光する各種のレジストもあります。

**Q** 感光材ってなんですか？

**A** フォトレジストは、「感光性機能分子を含む高分子化合物(感光材)」「各種溶剤」等で構成されています。当社は、この「感光材」を製造し、国内だけでなく海外のフォトレジストメーカーで使用されています。当社は、この分野において世界トップ企業で、高いシェアを有しています。

**Q** いつから感光材の生産を始めたのですか？

**A** 1970年代の半ば、半導体市場の成長に着目し、初期はネガ型感光材の基礎研究に着手いたしました。その後、更なる微細化の要求に応えるために、ポジ型感光材の開発を行いました。1981年に製品化に成功し、感光材の製造を開始いたしました。

**Q** 研究開発状況について教えてください

**A** 半導体の高集積化にともない、回路パターンの微細化が進んでおります。当社では、この微細化に対応する感光材の開発を中心に、お客様のご要望にあった最適な製品を提供しております。また、最先端の露光技術である「ArF液浸露光」「EUV露光」に向けた光酸発生剤の開発にも注力しております。

**Q** 今後の見通しについて教えてください

**A** 感光材事業は、半導体業界並びに液晶パネル業界の市場拡大にともない、着実に成長してまいりました。液晶テレビやパソコン、携帯電話、フラッシュメモリー、ゲーム機などの市場規模はさらに拡大するものと予測されています。当社は、この市場拡大を見据えて今年4月に完成した千葉第2工場建設など生産能力増強や研究開発に注力してまいりました。

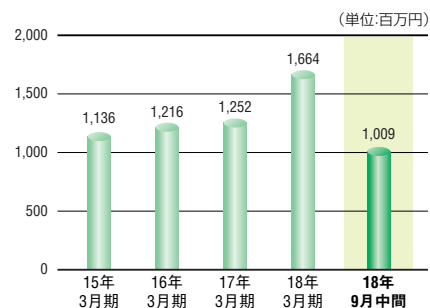
今後も、生産性向上や研究開発に注力し、お客様のご要望にあった最適な製品を提供し続けていきたいと考えております。

## 減価償却費について

感光性材料事業を中心に将来の市場拡大を見据えた大型設備投資を実施した結果、減価償却費は増加傾向にあり、減益要因の一つとなっております。

当社の設備投資は「機械装置」が大部分を占め、その性質上減価償却期間が短いことが特徴であります。この償却期間が短いことに加え、定率法を採用しているため設備投資初年度並びに2年目の償却率が高く、この結果、前期並びに今期の減価償却費が大きく増加しております。

このような状況の中、生産性向上に努め、原価低減を推進しております。



## ■ 中間貸借対照表 (要旨)

(百万円未満切捨表示)

科目	期別		
	当中間期 平成18年9月30日現在	前中間期 平成17年9月30日現在	前期 平成18年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	9,981	8,909	9,144
固定資産	17,823	15,492	16,941
有形固定資産	16,665	14,422	15,801
無形固定資産	187	178	158
投資その他の資産	969	892	982
資産合計	27,804	24,402	26,085
<b>負債の部</b>			
流動負債	12,729	11,704	11,616
固定負債	6,717	4,711	6,242
負債合計	19,447	16,416	17,859
<b>純資産の部</b>			
資本金	1,618	1,618	1,618
資本剰余金	1,541	1,541	1,541
利益剰余金	5,033	4,699	4,889
自己株式	△ 0	△ 0	△ 0
その他有価証券評価差額金	164	126	177
純資産合計	8,357	7,986	8,226
負債純資産合計	27,804	24,402	26,085

## ■ 中間損益計算書 (要旨)

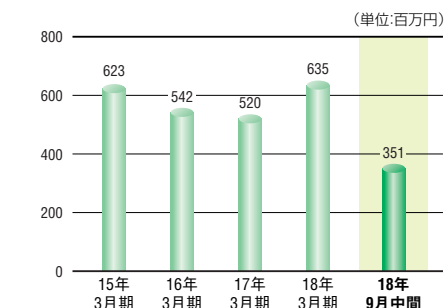
(百万円未満切捨表示)

科目	期別		
	当中間期 自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日	前中間期 自 平成17年4月1日 至 平成17年9月30日	前期 自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日
売上高	6,453	6,126	12,699
売上原価	5,095	4,539	9,671
売上総利益	1,358	1,587	3,027
販売費及び一般管理費	914	928	1,877
営業利益	443	658	1,149
営業外収益	106	39	79
営業外費用	108	126	249
経常利益	441	570	979
特別利益	—	—	27
特別損失	4	14	14
税引前中間(当期)純利益	436	556	992
法人税、住民税及び事業税	160	201	397
法人税等調整額	△ 5	0	△ 47
中間(当期)純利益	282	354	642
前期繰越利益	—	114	114
中間配当額	—	—	97
中間(当期)未処分利益	—	468	658

## 研究開発費について

「当社の生命線は研究開発力にある」という理念のもと、光・電子材料に関連する感光性材料の研究とその応用技術の開発、エネルギー関連のリチウムイオン電池や電気二重層キャパシタに用いられるイオン液体や電解液の研究開発、及び香料、機能性材料に用いられる化成品の研究開発、並びにバイオ材料、ナノインプリント用光硬化性樹脂の研究開発活動を行っております。

当中間期においては、研究開発強化のための設備投資や研究員増員などを実施したため、研究開発費は351百万円となっております。



# Financial Statements

## 財務諸表

### ■ 中間株主資本等変動計算書 (要旨) (当中間期 自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)

(百万円未満切捨表示)

	株主資本				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	
平成18年3月31日残高	1,618	1,541	4,889	8,048	8,226
中間会計期間中の変動額					
別途積立金の積立て (注)	—	—	—	—	—
剰余金の配当 (注)	—	—	△ 97	△ 97	△ 97
利益処分による役員賞与 (注)	—	—	△ 40	△ 40	△ 40
中間純利益	—	—	282	282	282
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額 (総額)					△ 13
中間会計期間中の変動額合計	—	—	144	144	131
平成18年9月30日残高	1,618	1,541	5,033	8,193	8,357

(注) 平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

### ■ 中間キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(百万円未満切捨表示)

科 目	期 別	当中間期	前中間期	前 期
		自平成18年4月1日 至平成18年9月30日	自平成17年4月1日 至平成17年9月30日	自平成17年4月1日 至平成18年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 17	99	1,562
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,811	△ 1,739	△ 3,402
財務活動によるキャッシュ・フロー		1,555	1,864	2,235
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		793	893	1,066

# Topics

## 千葉第2工場完成、本格生産へ (H18.04)

平成18年4月当社千葉工場の隣接地に新たに千葉第2工場が完成いたしました。

千葉第2工場は、急増するLCD市場の需要増に対応するため、現在市川工場で生産している感光性材料の原料生産設備の増強を目的としております。

現在、完成後の試運転を終了し、本格生産段階へ移行しております。



## BIO2006 出展 (H18.04)

平成18年4月9日から12日に米国シカゴで開催されたBIO2006に出展し、当社が新規事業として開発した、細胞アレイやバイオセンサーなどへの応用が期待される感光性バイオマテリアルBioSurfine-Awpを紹介いたしました。

## 千葉県主催セミナーにて講演 (H18.07)

平成18年7月24日に開催された千葉県主催セミナー「素材王国＝千葉県の広がる世界」に当社代表取締役社長木村正輝が「半導体用・液晶用感光材について」と題して講演を行いました。



# Stock Information

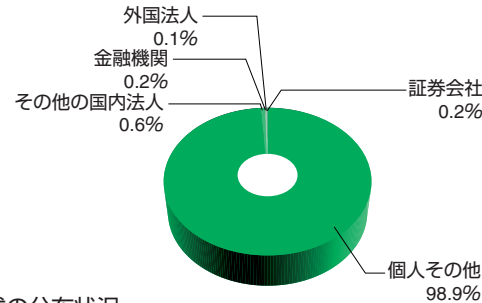
発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	8,979名

## 大株主

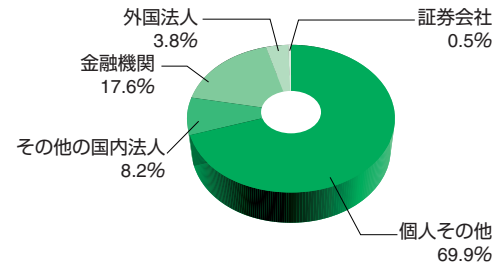
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
木村正輝	1,748,270	21.4
木村有仁	323,100	3.9
木村愛理	323,000	3.9
千葉銀行	298,100	3.6
東京都民銀行	298,000	3.6
日本マスタートラスト信託銀行	296,000	3.6
片岡文子	234,300	2.8
木村源四郎	210,100	2.5
学校法人早稲田大学	200,000	2.4
昭和エンジニアリング	170,000	2.0

## 株式の状況 (平成18年9月30日現在)

### 株主の分布状況



### 株式の分布状況



## 平成18年3月末の株主の皆様を対象としたアンケートの結果をご報告いたします。

### 株購入理由

ご回答者属性 回答者 1,628名 (回答率28.4%)

■ 当社の株式を購入いただいた理由は何ですか？ (複数回答可)

### 優待品

■ 次回の株主優待品 (千葉県特産品) は、どのような品がご希望ですか？

# Corporate Profile

## 会社の概要 (平成18年9月30日現在)

商号	東洋合成工業株式会社
設立	昭和29年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	347名
事業内容	1. 有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売 2. 画像形成用の感光性材料の製造並びに販売 3. 電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売 4. 電池材料ならびに電気二重層材料等の研究開発、製造並びに販売 5. 酵素の固定並びに細胞の培養をするための感光性樹脂の研究開発、製造並びに販売 6. 倉庫業 (液体化学品の保管管理) 7. 貨物運送取扱業

事業所	東京営業所 東京都中央区八丁堀4丁目13番1号 高浜油槽所 千葉県市川市高浜町7番地 感光材研究所 千葉県印旛郡印旛村若萩4丁目2番地1 市川工場 千葉県市川市上妙典1603番地 千葉工場 千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号 ヨーロッパ事務所 Teleport Towers Kingsfordweg 151 1043 GR Amsterdam The Netherlands
関係会社	TG Finetech Inc.

役員	代表取締役社長	木村正輝
専務取締役	春田雅彦	
取締役	菊地宏一	
	渡辺隆彦	
	山小三郎	
	川越邦彦	
	後谷桂之介	
	大田洋介	
監査役	伊藤久衛	
	青木昂	
	岡野苗弘	
	柴田武	

# Information

## お知らせ

**株主優待**  
毎年3月31日・9月30日現在において、株主名簿に記載のある100株以上の株式を所有されている株主様に下記のご優待をご用意しております。

株数	100株以上
優待品	2,000円相当の千葉県特産品



平成18年9月中間期末株主様へは、千葉県の誇るブランド米である千葉県香取郡多古町産コシヒカリ5kgと落花生のセットを、11月中旬～11月下旬にかけて贈呈いたしました。

**アンケートにご協力ください**  
ご協力いただいた方のうち抽選で100名様にQUOカード1,000円分を1月下旬に送付させていただきます。  
※平成19年1月12日(金)当社着にて締め切らせていただきます。  
※当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。  
※回答欄の下部に必ず株主番号及びお名前・会社名をご記入願います。



※アンケートご記入後、同封のプライバシー保護シールを宛名面の下段に貼って投函してください。  
※個人情報保護に配慮し、ご記入いただいた個人情報は当社のIR活動以外に活用することはありません。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日
	中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
	※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (郵便物送付先及び連絡先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
単元未満株式の買取請求	単元未満株式の買取りは上記の株主名簿管理人の事務取扱場所及び取次所でお取扱いいたしております。



IRに関する情報をご覧いただけます。

<http://www.toyogosei.co.jp/>

# 東洋合成工業株式会社

〒272-0012 千葉県市川市上妙典1603番地  
TEL047-327-8080 FAX047-327-8055  
E-mail : ir@toyogosei.co.jp

